

令和4年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 令和4年4月14日（木）

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

教科に関する調査

→ 調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～5学年> 国語、社会、算数、理科

<第6学年> 国語、社会、算数、理科、英語

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

学校名 品川区立中延小学校

品川区立中延小学校

令和4年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組
【国語】

(1) 各教科の定着状況についての概要

問題の内容、観点別、領域別に見て、全国平均を下回っている学年はあるが、基礎の学力が向上傾向にある。「書くこと」には、2～4，6年で課題がある。問題を最後まで読み取り、問題を理解する力を養う必要がある。

(2) 学年ごとの分析

2年	具体的な課題	原因として考えられること
	「情報の扱いに関する事項」「書くこと」 ・問題理解が難しい。	問題の読み取りや自分の思いや考えを文章に書くことに難しさがある。
	課題解決のための方策	文の書き方を提示し、テーマにかなう文章を書くことを繰り返す。問題理解ができるよう、読み直すことを指導する。
3年	具体的な課題	原因として考えられること
	「情報の扱いに関する事項」「書くこと」 ・最後まで解答すること。	問題の読み取りや自分の思いや考えを文章に整理してわかりやすく書くことに難しさがある。
	課題解決のための方策	本（文章）を読むことを推進する。また、思ったことや考えたことを書くことに繰り返し取り組む。
4年	具体的な課題	原因として考えられること
	「言葉の特徴や使い方に関する事項」 「書くこと」	条件を満たして書くことに難しさがある。漢字を正しく書くことに課題がある。
	課題解決のための方策	文章を書くにあたり、何を書くべきかを確認して書くこと。書き順や止めや払いに気を付けて、漢字を正しく書く練習を繰り返し行う。
5年	具体的な課題	原因として考えられること
	漢字を書くこと 「言葉の特徴や使い方に関する事項」	正しく漢字を書くことに課題がある。言語事項の学習が定着していない。
	課題解決のための方策	漢字を書く練習を繰り返し行っていく。文章の読み取りで、修飾語等を意識し、書く活動を行う。
6年	具体的な課題	原因として考えられること
	「説明文の内容を読み取る」「書くこと」 「我が国の言語文化に関する事項」	段落構成の理解が十分でない。条件を満たして書くことに難しさがある。
	課題解決のための方策	文章を読むことを繰り返し、その過程で段落を確認する。漢字の練習を繰り返す際、辞書を活用し、意味理解につなげる。

※2学期以降、課題解決のための方策に取り組み、学期末に課題の確認を行う。

(3) 次年度の数値目標

目標値に届いていない領域等について、まずは目標値に近づくことを目指す。全体的に課題となっている「書くこと」については、何を求められているか、注意点を丁寧に確認して書く練習をしたり、日記などを書くことを習慣化したりすることを実践し、無解答をなくし、ポイントを押さえて書けるようにする。

品川区立中延小学校

令和4年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

【社会】

(1) 各教科の定着状況についての概要

前年度に比べて向上した項目が多い。第4学年は、前年度の目標値を目指していたが今年度は目標値を7.4%上回っていると同時に、観点別の定着も目標値を上回る結果となった。第5学年は、達成率は目標値を5%以上、上回った。第6学年は、前年度の達成率よりも17%向上した。

だが、各学年ともに見られる傾向として、基礎知識と地図などを活用した資料の読み取りにおいて、得点分布に二極化がみられる。今後は主に基礎的な学習内容の確かな定着と活用力の育成に取り組む。

(2) 学年ごとの分析

4年	具体的な課題		原因として考えられること
	どの領域でも目標値を上回っているが、「お店ではたらく人」の学習単元での資料の読み取りに課題があった。		この単元については、コロナ禍に伴い、唯一見学を伴う学習を進められなかったことが影響していると考えられる。
	課題解決のための方策	児童に自分の生活との関係性をもたせるためにも、見学やゲストティーチャーの活用、実物に触れる体験をどの単元にも効果的に位置付ける。その上で、資料から読み取る学習を充実させる。	
5年	具体的な課題		原因として考えられること
	どの領域でも目標値を上回っているが、「地図からの読み取り」に課題があった。		学年内に学力の差が見られる。また、問題を分析すると、地図を活用した資料の読み取りに誤答が多かった。このことから、「八方位」などの基礎的な知識の定着を図り、地図を読み取る力を充実させる必要がある。
	課題解決のための方策	前年度の学習を踏まえてタブレット端末や復習プリントを活用しながら学習の振り返りを充実させることを通して、定着の差をなくす。また、どの単元の学習にも地図を活用しつつ、八方位など基礎的な学習を体験的に身に付けさせる。	
6年	具体的な課題		原因として考えられること
	前年度に比べ、正答率は向上しているが、全体的に正答率が低い。		基礎的な知識の獲得を踏まえ、「資料をどのように読み取るのか。」といった技能の獲得に課題がある。
	課題解決のための方策	学習の始まる3分間を使用して、基礎的な知識の獲得を繰り返し行う。単元ごとに復習プリントやタブレット端末での学習を実施し、資料を読み取る力を向上させる。また、問題の解き方を身に付けさせることで、「できた」という達成感を味合わせ、自信をもたせる。	

※2学期以降、課題解決のための方策に取り組み、学期末に課題の確認を行う。

(3) 次年度の数値目標

前年度の結果を踏まえ、3年生は目標値65%を目指す。4年生は、現状維持またはプラス2%、5年生は、現状維持または5%向上を目指す。

品川区立中延小学校

令和4年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組 【算数】

(1) 各教科の定着状況についての概要

2, 3, 4, 6年生は全国平均とほぼ同程度でおおむね良好な状況といえる。特に5年生は全国平均を大きく上回る結果となった。基礎の正答率はどの学年も目標値に達している。領域では、数と計算の正答率が高い。観点別では、知識技能の正答率は目標値に達しているが、思考判断・表現については、数ポイント目標値に達しない学年がある。今後は、基礎的な学習内容を活用し、考え、表現する力を育成することが重要である。

(2) 学年ごとの分析

2年	具体的な課題		原因として考えられること
	「立体を写し取った形」 「水の量の比較」		立体や図形のイメージをすることが苦手な傾向がある。
	課題解決のための方策	問題文を最後まで読むことを指導すると共に、図形の問題では、具体物の操作を取り入れ、イメージ力を身に付けられるようにする。	
3年	具体的な課題		原因として考えられること
	「箱の面の形や長さ」「表やグラフ」 ・考え方や理由の説明		立体や図形のイメージをすることが苦手な傾向がみられる。考え方を言葉で表現し、伝える活動を苦手とする児童がみられる。
	課題解決のための方策	問題文が長文であっても、問われていることを整理しながら、最後まで読むことを定着させる。図形の問題では具体物の操作の時間を多くとる。考え方を言葉で説明したり、図や絵や表を用いて分かりやすく表現する学習活動を取り入れる。	
4年	具体的な課題		原因として考えられること
	・考え方や理由の説明		算数の用語を正しく用いて説明することが苦手な児童が多い。
	課題解決のための方策	絵や図や表を用いて分かりやすく表現する学習活動を取り入れる。	
5年	具体的な課題		原因として考えられること
	「図形の面積」「単位換算」		日常の生活場面で面積や体積を意識する場面が少ないことが考えられる。
	課題解決のための方策	実際に面積や体積を求める体験的な活動を通して量感を培い、単位間の関係を、実感をもって理解できるように指導する。	
6年	具体的な課題		原因として考えられること
	「偶数・奇数」「倍数・約数」 「割合」		問題文から具体的な場面をイメージ化したり、数量の大きさを図で表したりすることが苦手な児童が多い。
	課題解決のための方策	求めることが何かをおさえ、問題文を図に表したり、簡単な数値に直したりして解決の糸口をつかめるように指導する。	

※2学期以降、課題解決のための方策に取り組み、学期末に課題の確認を行う。

(3) 次年度の数値目標

全体の達成率を各学年5ポイント上げる。思考・判断・表現の観点を目指値に達する。

品川区立中延小学校

令和4年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

【理科】

(1) 各教科の定着状況についての概要

各学年共に前年度より平均正答率のポイントを上げており、4年生、5年生については全国平均を上回る良好な状況となった。活用問題や記述問題においても目標値を上回っている。特に、6年生においては前年度の達成率と比較すると17.1%向上しているという結果になった。全体的に、実験結果をまとめたり、結果から考えられることを表現したりすることに課題が見られる。

(2) 学年ごとの分析

4年	具体的な課題	原因として考えられること
	「こん虫のからだのつくり」 「太陽と地面のようす」 基礎知識と結果から考えられることの記述に課題がある。	・知識や技能の着実な定着に課題が見られる。 ・説明する力が十分に身に付いていない。
	課題解決のための方策	・課題解決に必要な基礎基本を定着させるため、基礎的基本的な学習内容を繰り返し習熟させる時間をとる。 ・考察を書く際に、話型を示し結果から分かりやすく説明する方法を身に付けさせる。
5年	具体的な課題	原因として考えられること
	「水のすがた」 実験の結果から考えられることを文章で表現することに課題がある。	・問題を読み取る力が十分とはいえない。 ・実験の結果を予想する力が弱い。
	課題解決のための方策	・考察する活動を繰り返し行うことで問題解決の力を養う。 ・既習事項の確認や復習ができるような活動を学習の中で設定する。
6年	具体的な課題	原因として考えられること
	全体的に記述問題が苦手である。	・知識の定着が不十分なため、文章で表現することができない。
	課題解決のための方策	・基礎的な知識の定着のために、繰り返し復習する。 ・振り返りの時間や補充時間に取り組む時間を設ける。

※2学期以降、課題解決のための方策に取り組み、学期末に課題の確認を行う。

(3) 次年度の数値目標

- ・次年度の5年生は「基礎」に関する正答率を5%程度上がるよう、上記の方策を行う。
- ・次年度の6年生は「活用」に関する正答率を3%程度上がるよう、上記の方策を行う。

品川区立中延小学校

令和4年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

【英語】

(1) 各教科の定着状況についての概要

全国平均と比べると若干低い傾向が見られる。しかし、目標値で比較すると活用の正答率が高い。観点別では、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度は目標値に達しているが、知識・技能の正答率は目標値に十分達していない。

(2) 分析

6年	具体的な課題	原因として考えられること
	アルファベットの読み・書き 日常会話の聞き取りと理解	アルファベットの音と文字がつながっていない。 英語を聞いて理解することに苦手意識が見られる
	課題解決のための方策	2学期以降アルファベットの読み・書きを毎時間の授業に取り入れる。 英語を聞いて答えたり、場面に合う英語を選んだりする活動を行う。

※2学期以降、課題解決のための方策に取り組み、学期末に課題の確認を行う。

(3) 次年度の数値目標

全体の正答率を3ポイント上げる。知識・技能の観点を目指値に達する。